

甲子園出場経験を活かして



板橋諒太さん
(上町)

8月8日に阪神甲子園球場で開催の、第89回全国高等学校野球選手権に出場した、宇都宮文星芸術大学附属高等学校2年生の板橋諒太さんにお話を伺いました(9月12日現在)。

2年生ながら5番で、ポジションも遊撃手。チームの中心選手として活躍する板橋さんは、現在、秋の新人戦に向けて練習に励んでいます。この大会も春の選抜大会出場に関わる重要な大会のため、日々練習に励み、勝ち抜けるように頑張っています。

野球を始めたきっかけは、小学校3年生の時に、幼なじみの勧めで野球を始めたそうです。上三川クラブで野球を始めて、そして、小学校3年生の秋頃からは、試合には出ていたとのこと。甲子園では、1回戦の市立船橋(千葉県代表)戦で、5打数5安打と大活躍でした。「地

今月の輝ける星

区予選でも打率は3割8分と打撃が好調にみえましたが、地区予選ではつまった当たりが多かったため、部長さんの指導のとおり練習を行い、大会までに修正できました。そのおかげで1回戦の5打数5安打につながったと思います。」と笑顔で話してくれました。

練習については、基礎体力を鍛える冬場の練習が辛いとのことですが、「大会で勝ち進むことはとても嬉しいです。そのためにも練習を頑張っていきたいです。」と結果を残すための練習の重要性を語ってくれました。目標については、「甲子園に出場した経験を活かして、声を出してチームを盛り上げていきたいです。個人的には、つなぐ野球ができるように頑張りたいです。」とチームプレーに徹し、再度甲子園を目指す力強い意気込みが感じられました。



【写真提供：下野新聞社】

かみのかわ 四季の野鳥 ジョウビタキ(尉鶺) ヒタキ科

稲刈りも終りに近づき、農道を行き交うコンバインや軽トラックの姿も少なくなって、切り株だけになった田んぼの上を赤トンボが飛び回っています。水田近くの林に今年もジョウビタキが渡ってきました。

ジョウビタキは、スズメほどの大きさのヒタキ科の鳥で、秋に大陸から海を渡ってやってきます。公園や市街地でもよく見られ、1羽ずつがナワバリを作り、他の個体が進入してくると攻撃して追い出します。

オスは、頭上が白く黒い羽に白いワンポイントが目立ち腹部は鮮やかなオレンジ色、メスのほうは一見地味ですがよく見ると深いオリーブ色が美しい鳥です。人家の庭などでも見られ、あまり人を恐れず近くに寄ってきます。

ヒタキの間には、夏鳥のノビタキや山地で繁殖し冬は平地に降りてくるルリビタキなどがいて、「ヒッヒッ カッカッ」という鳴き声が火打石を打つ音に似ているために「火焚き(ヒタキ)」の名がついたとされます。



「ヒッヒッ」なわばりを主張するオス



地味ながら美しい羽色のメス



この印刷物は古紙配合率100%の再生紙と環境にやさしい大豆油インクを使用しています。